鹿児島県立薩摩中央高等学校
高等学校DX加速化推進事業

DATE:	令和8年10月26日
Topic:	生活支援技術における ICT 活用と主体的な学びの促進

福祉科では、生活支援技術の授業において、iPad を活用した介助場面の撮影と動画による振り返り活動に取り組んでいます。ベッド上での移動介助などの実習では、介護者・利用者・観察者の3人1組で役割を分担し、実際の介助場面を撮影します。

動画を撮影することで、生徒自身の介助動作や姿勢、身体の使い方を客観的な視点で見返すことができるようにしています。また、映像に記録された音声を通して、利用者への声かけの仕方やコミュニケーションの取り方についても振り返りを行っています。授業後には、フォームを活用し、実践を通して気づいたことや課題を整理することで、他者の視点も取り入れながら自身の介護技術を見つめ直す機会としています。

さらに、撮影した動画は教員による評価にも活用しています。実技中の観察に加えて、動画を繰り返し確認することで、生徒の動作や声かけなど、技術の習得状況をより詳しく把握し、評価の資料にするとともに、その後の指導の改善に役立てています。

このように、ICT を活用して実践・振り返り・評価をつなぐことで、生徒自身が課題を発見し、改善につなげる学習活動を充実させるとともに、教員による評価の充実を図っています。

今後も ICT を効果的に活用した授業実践を通して、生徒の主体的な学びを促し、専門的な知識と技術を身につけた介護福祉士の育成につなげていきます。

※　本取組は「高等学校DX加速化推進事業」の一環で実施したものです。



